

試行の川崎区区民会議報告書

平成18年3月



議長	弾塚	誠
副議長	平田	順子
委員	魚津	利興
	長村	信幸
	金岩	勇夫
	貞本	和男
	島田	榮子
	島田	潤二
	中村	紀子
	西川	キミ子
	平岡	順子
	蛭間	寛
	森	教祐
	吉邨	泰弘

目 次

区における課題の解決に関する事項について

課題の把握と選定 1

課題に関する共通理解及び課題解決策の検討 2

1 身近な地域での子育て・子育て支援活動 2

- (1) 現状把握
- (2) 新たな取組情報
- (3) 区民会議での主な意見等
- (4) 課題解決策の検討
- (5) 地域における子育て・子育て支援活動のまとめ
- (6) 区民会議参与の助言

2 川崎駅周辺の自転車対策 6

- (1) 現状把握
- (2) 新たな取組情報
- (3) 区民会議での主な意見等
- (4) 課題解決策の検討
- (5) 川崎駅周辺の自転車対策のまとめ
- (6) 区民会議参与の助言

課題解決への取組 9

区民会議の制度設計に関する事項について

区民会議の制度について 10

今後に向けて 11

委員からの感想 12

川崎市長 阿部孝夫 様
川崎区長 長坂 潔 様

「試行の川崎区区民会議」は、本実施に向けた区民会議の制度化及び区における課題解決に資することを目的に設置され、各事項について審議を行いました。

全3回の「試行の川崎区区民会議」における審議結果をとりまとめ、ここに報告いたします。

試行の川崎区区民会議 議長 弾塚 誠
同 副議長 平田順子

【開催日程】	第1回	平成17年	7月26日(火)	午前10時	川崎区役所7階会議室
	第2回	平成17年	11月21日(月)	午後2時	川崎区役所7階会議室
	第3回	平成18年	3月20日(月)	午後3時	川崎区役所7階会議室

区における課題の解決に関する事項について

課題の把握と選定

試行の区民会議の審議課題については、区づくり白書策定、都市計画マスタープラン区民提案づくり、まちづくりクラブからの提案、区内各町内会長に対して行ったアンケート結果、区役所が業務を通じて把握した課題等、これまで区役所が把握している課題から、試行の区民会議にふさわしい課題として「川崎駅周辺の放置自転車」「子育て支援」「緑と公園」「観光振興」の4つが事務局から各委員に提案されました。

これを受けて委員からは、「防犯・防災に関すること」「川崎駅周辺のバリアフリー」「スポーツ振興と健康をまちづくりに活かすこと」「放置自転車対策に関する取組み方」について課題の提出があり、これらを踏まえて最終的に「身近な地域での子育て・子育て支援活動」「川崎駅周辺の自転車対策」の二つを審議課題といたしました。

課題に関する共通理解及び課題解決策の検討

試行の区民会議では、課題解決策の検討に向けて、まず、委員相互の課題に関する認識を共有化することが重要であるとの考え方から、現状の把握や地域での取組などについて情報提供していただきました。

1 身近な地域での子育て・子育て支援活動

(1) 現状把握

行政からの情報提供

ア こどもを取り巻く川崎区の特徴について

核家族化

少子高齢社会の進行

就労している母親が多い

児童虐待の相談件数が多い

外国語を母国語としている児童が多く、コミュニケーションが取りづらい

若年出産が多い

イ 子育て状況 - 川崎市の次世代育成支援行動計画策定のアンケートから -

・子どもを育てている現在の生活に65%の人が満足している

・子育てをする気が起こらないときがある人が48%いる

・子育てに必要なサービスとして、場所・機会に対する要望が強い

こどもを遊ばせる場や機会の提供、親のリフレッシュの場や機会の提供、
子育て中の親同士の仲間づくり、子育てに関する総合的な情報提供、
親の悩みや相談

ウ 仲間づくりの市民活動事例

地域における子育て・子育て支援活動を行っている保健福祉センターが関わっている活動団体について紹介されましたが、その他、各地区の母親クラブやこども文化センター、子育て支援センターやボランティアグループによる活動事例があることも報告されました。

地域での子育て支援活動の事例紹介（大師地区民生委員児童委員協議会等）

ア 子育てサロン大師の活動

イ 川中島子育てパークの活動

ウ 地域での支援に関わる立場からの課題

会場の確保の問題

活動に関するPRが不足しているため、必要としている人に届かない

子育てに関する行政の取組と課題（子育て支援センター）

ア 親子の関わりの問題

イ 親子に対する地域の関わりの重要性

- ウ 行政施策へのボランティア協力依頼
子育て・子育てに関する行政の取組（区役所こども総合支援担当）
- ア 就学前と就学後のこどもの総合的な支援を目指した取組
- イ 「川崎区総合支援連絡会議」の取組
- ウ 幼児と小学生の異年齢児交流運動会の実施
- エ 地域緊急情報連絡網の設置

(2) 新たな取組情報

- ア 子育て散歩マップ外国語版の作成
- イ 川崎区保育園年長児担当者会議（保育士と小学校教諭との情報交換）
- ウ 新入学児・生徒の安全確保広報事業（入学時説明会において）

(3) 区民会議での主な意見等

- ・よく利用する施設などにおける PR の方法を工夫する。
- ・町内会の掲示板など身近な地域における広報の重要性。
- ・口コミによる周知が実績をあげている。
- ・子育てサロンなどの場に中学生、高校生が参加し、母性を深めることで児童虐待や若年妊娠などの面で効果が期待できる。
- ・地域の「子育てひろば」は充実している。土日が開かれていれば、父親が参加できる。
- ・公園の環境整備が大切。生き物と接することで豊かな心を育てる教育ができるのではないか。

(4) 課題解決策の検討

解決の方策

- ア 情報の提供と地域での広報について
 - ・行政からはホームページや子育てガイドの作成配布を充実させていく。
 - ・行政が把握しにくい地域の情報の収集方法や配布先が課題。必要とする人のところに届く努力が必要。
 - ・口コミによる周知が実績をあげている。
 - ・子育てサロンなどの場に中学生、高校生が参加し、母性を深めることで児童虐待や若年妊娠などの面で効果が期待できる。
- イ 外国人の保育園での受入れについて
 - ・外国人の情報の入手方法については、インターネットやひらがなのルビが振ってあるパンフレットからが多い。日常的に使うスーパーマーケットなどに協力してもらい、広報物を配布する方法も考えられる。
- ウ 外国籍の人等に対する支援について
 - ・教育文化会館、ふれあい館等の講座と連携することで情報提供していく。
- エ 子育て支援センターの設置について
 - ・学校の空き教室などを利用する等、各地域に設置してほしい。

- ・関係所管局である健康福祉局にその必要性について伝える。
- オ 障害児を持つ親に対する地域や社会的な支援について
 - ・保健福祉センターとして、新しい概念の障害に対応できるよう努め、区役所が連携の要となり、療育センターと連携しながら進める。
- カ 子どもの救急措置について
 - ・心配蘇生法や AED の使用についての研修などを開催してほしい。
 - ・AED は学校に順次配置し、職員研修などを実施している。
 - ・地域住民を対象にした研修などを、受けやすい方法を工夫し、開催していく。
- キ その他
 - ・子育て支援の現場に、保育士等専門職の派遣などを考えてほしい。
 - ・民生児童委員として、ネットワーク会議に参加したい。
 - ・子育てサロンを学校などで実施したい。
 - ・こども総合支援担当が窓口になり、コーディネートしていく。
 - ・地域の「子育てひろば」は充実している。土日が開かれていれば父親が参加できる。
 - ・教育文化会館で開催している「子どもの居場所」に就学前の子どもが参加することで、世代の流れができ、子どもの居場所も効果があがる。
 - ・公園の環境整備が大切。生き物と接することで豊かな心を育てる教育ができるのではないか。

(5) 地域における子育て・子育て支援活動のまとめ

身近な地域での子育て・子育てに関する活動の場所と機会が必要である。

地域における子育て等を支援する活動が必要である。

情報発信の充実と広報の強化が必要である。

- ・活動について、身近な子育て中の人に広報していくことが必要であり、そのためには、口コミの方法、また、よく利用する施設などの協力を得てチラシの配布などで効果的に行うことも必要である。
- ・情報の発信については、行政情報や身近な地域情報を積極的に発信するよう区民と行政さらには関係機関が協働し、積極的に行う必要がある。
- ・外国人等に対する情報提供に関しては、外国語版のガイドやひらがなのルビを振ったパンフレットを用意するなどの配慮をする。

就学前と就学後の子育て・子育て支援がスムーズできるように、こどもに関係する機関が連携強化することが必要である。

- ・区役所に新たに組織された「こども総合支援担当」を中心に、区内の関係機関連絡会議の開催や、地域と行政のネットワーク会議を立ち上げ、情報の共有化や課題の共通認識を深め、連携した課題解決に向けた取組を行う。
- ・幼稚園、保育園、小学校の連携を図る。

地域における子育て支援については、民生委員が中心のなかで、保育士や保健師を派遣するなど協働で行う方法もあり、ネットワーク会議等で意見を出しながら進める。

若年出産が多いことが川崎区の特徴とあったが、若い世代に対して子育てを応援しているところを紹介することが大切であり、ネットワーク会議のなかに、商業・企業にも支援してほしい。

子育て支援センター事業など、地域の力を必要とするところとの連携は積極的に行う。子どもを取り巻く安全確保対策の強化。

取組の成果について

- ・こども総合支援担当ができたことにより、就学期分断していたものがこどもの成長に合わせて支援していけるようになった。また、地域の横断的な支援ができるように、学校、幼稚園の連携ができるようになった。徐々に成果があがってきている。

こども110番等について、地域の支援が必要である。24時間コンビニ。こどもの下校時のパトロールをお年寄りをお願いすれば、協力していただけるのではないかと。

- ・向小の地域の人が校門から安全対策。宮前小では地域の老人会に働きかけている。こども110番については、こどもに周知することが重要であることから徹底を図る。

既存のこども会の活動にも目を向けて取組んでもらいたい。最近、マンションでこども会に入ってもらえない現状があり、活動は衰退している。区民自身が頑張ることでもあるが、行政としても強化をはかってもらいたい。

こども110番は宮前界隈では京急ストアにも貼ってある。事件などの取りまとめは行政で分かるのか。

- ・PTAや地域教育会議が中心になっているが、学校に働きかけてマップを整理するようお願いしている。事件等の集約については警察だが、緊急の情報はいろいろなルートで入るので、関係する施設等に情報を流している。どのようなルートで入ってきても必要なところに発信しており、半年で6回あった。速やかに流している。

こども110番は町会の交通、防犯の活動のなかで生まれた。地域教育会議で発案のあった「見守り隊」を町内の掲示板で広報している。虐待については、幼児、園児の被害に関して保健所等が巡回などしているので、制度化に向けて行政との連携はできないのか。

- ・行政だけではなく社会全体で未然に防ぐため、児童虐待防止法が改正された。保健福祉センターを中心に地域、児童相談所等とも連携はよくなってきている。妊娠時からの把握ができる98%フォローができるようになってきている。できるだけ大きな問題にならないようにしており、日常的にこれからも連携していきたい。

3・4ヶ月児、7～10ヶ月児、4・5歳児検診、保育園医、学校医の制度あり、また、なにかあれば児童相談所に相談をするという体制ができています。

子育てで重要なのは小学生だが、地域で支援しようとしても校門は閉まっている。こども110番の看板の前でなければ声かけができない。子ども会がなくなってしまうと学区外から通うこどもも多いので、こどもの実態をつかむことが難しい。行政と地域、学校が協力していきたいので、今後の検討課題にしてほしい。次回からは小学校の先生に委員に入ってもらいたい。

- ・公立の先生は市職員なので委員にはなれない。3回の試行で意見が出揃ってきたという感じを持っている。本実施に向けて進めていただきたい。

子育て、自転車の課題は、前年度やった課題だからということで外されるのか聞きたい。

- ・ 試行の審議課題を改めて本会議でとりあげることは可能。委員が決めること。

(6) 区民会議参与の助言

- ・ 地域に子育てひろばや支援センターをつくり、その中に糾合することができたらよい。
- ・ 子育てサロンや子育て支援センターに出てこられない親子に対する支援が必要。広報や口コミが重要である。
- ・ 映画街、駅ビル、デパートなど人が集まる場所に子どもの一時預かりがあるとよい。
- ・ 区民会議のあり方として、人口の変化など、先を見ながら区民会議における検討を行うことで効果的な方向性が示せるのではないか。
- ・ 区民会議における話し合いの結果がどのように解決に向かうのか、チェックし、その後の発展につながるのかを積重ねることが重要である。
- ・ 雨の日でも子どもを遊ばせることができる場所として、こども文化センターなどを改修することも検討すべきではないか。

2 川崎駅周辺の自転車対策

(1) 現状把握

ア 自転車利用者の増加

イ 放置自転車の増加

ウ 市民1万人アンケート

買い物での自転車利用者割合が通勤での自転車利用者を上回っている

歩道の放置自転車について

- ・ 乗入れ規制や撤去を行う
- ・ 整然と並んでいればやむをえない
- ・ 駐輪場がないのでやむをえない

エ 行政の放置自転車対策

駐輪場の整備

放置自転車の撤去

自転車利用者への啓発・指導活動

オ 地域における取組

川崎駅東口放置自転車対策実行委員会の取組を通じた課題

- ・ 利用者に対する駐輪場の不足
- ・ 活動時間以外の対応が求められる
- ・ 撤去作業方法の固定化による問題
- ・ 図書館利用者の駐輪場の整備

民間事業者による駐輪場への人員配置等の取組

- ・ ルフロン公園駐輪場整備において機械式を導入したが、無人化したために利用者が増えなかった。管理している民間業者が人員を配置した結果、利用者が安定して増

加してきている。

- ・大型商業施設、警察、地域の商店街連合会との協働によるさいか屋前の歩道上の放置自転車はきれいに無くなった。

行政の駐輪場整備

(2) 新たな取組情報

ア 駐輪場の案内看板の設置

駅周辺を中心に、駐輪場の場所が分からずに放置することを防ぐため。

イ 放置禁止区域を示す路面表示の設置

(3) 区民会議での主な意見等

- ・保管場所を近くに設置することで、引取り率が上がるのではないか。
- ・自転車を大いに利用し、安全に通学、通勤や普段の歩行しやすいまちづくりにつながるとうい。
- ・自転車問題には、まちづくりクラブで何年間か取組んできたが、はみ出し陳列、はみ出し看板などとも一体的に、警察、民間、国、行政が一丸となって取組まないと解決しにくい。
- ・事業者としても駐輪場対策は必要経費として認識していくことが大事である。
- ・駐輪場の場所を確保することが難しい現状では、大胆な駐輪場構想が必要である。
- ・駅前の自転車対策は、ボランティアだけに頼る方法は限界がある。
- ・交通安全母の会では自転車教室を実施しているが、マナーや正しい自転車の乗り方のほかに、駅前の自転車の乗入れは控えたほうがよく、乗入れた場合には駐輪場を利用してほしいといったことなどをその都度伝えていくことが大切である。

(4) 課題解決策の検討

- ・川崎駅西口の再開発において進めている自転車対策を、参考にしたらよいのではないか。
- ・行政、民間事業者、事業者等の個別や連携による整備が必要である
- ・自転車利用者へのマナー向上の働きかけの必要性。
- ・自転車教室などの機会を利用し、正しい自転車の乗り方やマナーの他、駅前に自転車を乗入れた場合には駐輪場を利用して欲しい事等をその都度伝えていくことが大切である。

(5) 川崎駅周辺の自転車対策のまとめ

駐輪場の増設が必要であるが、大胆な構想が必要である。

事業者として、駐輪場対策は必要であることを認識していくことが大事である。

駅前の自転車対策は、はみ出し陳列、はみ出し看板などとも一体的に、ボランティアや警察、民間、国、行政が一丸となって取組まないと解決しにくい。

駐輪場が整備されるまでの間の歩行空間等の確保策が必要である。

自転車を乗らないようにするのではなく、安全に、通学、通勤、買い物等普段、歩行しやすいまちづくりにつながるとうい。

自転車教室などの機会を利用し、自転車利用者へのマナー向上の働きかけを行う。
引取り率を上げるために、保管場所を近くに設置することが必要ではないか。
看板と路面シートの歩行者に対するインパクトはどうか。路面シートの方がよいのではないか。

・看板は横 120cm、縦 90cm で、放置禁止区域、駐輪場の案内をするため、ダイス、岡田屋モアーズ等 4 箇所に設置。自転車利用の区民から禁止区域がわかりにくい、駐輪場がわかりにくいとの苦情があり、目に付きやすいものにした。路面に表示するシートは言葉だけでなく目に訴えるため。さいか屋等周辺に 30 枚前後を考えている。

自転車専用道路を整備してもらいたい。

・要望として盛り込ませていただきたい。

違法駐輪の関係では、会社の前で工事中にも関わらず、停めて行く人がいる。京急の地下利用についての話があったと思うがその後、どうしたのか聞きたい。

・駐輪場の整備についても、何か所か予定している。京急とは直接話しはしていないが、要望することの準備を進めている。

(6) 区民会議参与の助言

既存の自動車駐車場などの活用を視野に入れた取組や鉄道事業者等との調整の必要性。
駐輪対策について、70～80歳のお年寄りが毎朝7時から8時まで動員され、自転車の整理を行っている。週1回でも警察が立ってくれば、罵声もあびせられることはないのではないか。西口でも同様の状況。

京急本線から駅前には自転車乗入れ禁止にしたらどうか。ステッカーなども見て見ぬフリされる。広い場所を駐輪場として確保し、そこから歩くようにするのはどうか。また、市政だより1面を使って不法駐輪はやめましようと呼びかけすることも必要ではないか。

課題解決への取組

「試行の川崎区区民会議」の3回に渡る調査審議において、二つの課題に関して共通理解を深めるために、委員、関係者、行政、区民会議参与がそれぞれの立場で情報交換してまいりました。

区民会議委員からは、地域で活動している団体の立場からの意見や利用者である身近な人からの意見・感想の紹介、行政の取組に対する質問や意見、行政からは、データによる分析、アンケートなどの市民意識、課題に関する取組などの現状把握について、さらに、関係者からの具体的な活動事例の紹介と、活動に携わっている立場からの問題点などについて情報提供をしていただきました。また、地域の状況を幅広い見地から把握されている区民会議参与からの助言があったことや、課題に関する行政に向けた委員からの質疑応答から、取組につながったものもあり、試行の区民会議における課題の調査審議を通して、試行の一定の役割は果たせたものと考えます。

今後は、この審議結果報告に基づき、区長は区役所が独自で取組むこと、また、関係する局や機関等と実効性を追求し、委員は区民として自ら実践できることなどをそれぞれの団体を単位とし、地域の関係する団体等と連携した取組を行うなど、役割分担による協働の取組を行っていくこととなります。

課題解決に向けた取組が着実に進行していくことが重要であり、進行管理のあり方についても区民が主体的に関わっていく必要があります。区民会議の本格実施にともない、試行で審議した二つの課題がさらに課題解決に向けた審議事項となる可能性も含みながら、まとめといたします。

区民会議の制度設計に関する事項について

区民会議の制度について

区民会議が、新総合計画、自治基本条例、第2次行財政改革プランの策定に位置付けられている。

区行政改革の基本的な考え方として、「地域のことは地域で決めて実行する」ことを原則とし、地域社会が抱える様々な課題を、市民との協働により解決していくことを目指して、「窓口サービス機能中心の区役所から、地域課題を自ら発見し解決できる市民協働拠点へ」区役所の改革を進めていく。

以上の位置付け、区行政改革に沿ったものであることを理解したうえで次の意見がありました。

・ 調査審議する事項

審議結果を受けた区長が、解決に向けた取組を行うときの、事業局との関係については調整してほしい。

緊急性の面では、防災関係についてのテーマが大事なのではないかと考えている。

地震はいつ起こるか分からないことから防災については、緊急性がある。

区民会議で区の課題の方向性が関係局の事業として取り上げ、予算要求する場面があり、参与の皆様のご協力が不可欠かと思うが、全会一致でないと実現が難しいのではないか。

区民会議の目的が自治基本条例で決められているが、市民自治の拡充や、地域社会の課題を地域のなかで解決していくことである。区と関係局の間で調整していくが、区の課題が全市的な取組になると限るものではない。

課題に関してはたくさんの意見が寄せられているのではないかと思うので、なるべく多くの課題を提示してもらいたい。

年4回の開催が原則ということだが、議題によっては、専門部会で検討するなどし、もう少したくさんの議題を消化していけたらよいと思う。

課題が区長権限の範囲、協働推進事業費の範囲内であれば、区政推進会議と一緒に。今後は各事業局に関わるものも審議していかないと解決していかないとと思う。

・ 委員の選任

委員の中に、若い世代や子育て中の方々が入れられるようにしてもらいたい。

・ 公募委員の選任 なし

- ・ 任期・再任
事前に送られてきた資料には再任 1 回となっていたが、市の意向なのか、区の意向なのか。全市的な考えを区も踏襲するのかお聞きしたい。
公募委員の再任は、団体推薦委員と異なるのか。
- ・ 団体推薦委員と公募委員については、事務局として現在のところ、一緒と考えている。
- ・ 会議運営
その年に取り上げる課題やテーマによって回数が異なるのではないかと。課題の取上げ方に関連して 4 回という数字についての考え方があれば聞きたい。
審議時間の 2 時間は足りなかった。時間を気にして発言ができないこともあり、消化不良だった。
本会議に向けて、区民会議の進め方について考えることがあるが、委員の皆様の質問に対しては行政が応えることはよいが、提案に対しては委員のなかで議論ができた方よりよい会議になるのではないかとと思う。
- ・ 全体について
本年 3 月をもって、区政推進会議が区民会議に移行すること、所規定に基づいて行うとなっているが、これまでの良いところは専門部会等で残してもらいたい。
副委員長は議長を補佐するとあるが、副議長を設けなければならないのか。
専門部会が重要になると思うが、専門部会の部会長に権限は与えられるのか。
区民会議では、諸団体の区民の意見を聞きながら、行政と一緒にいいものができるといいと思う。また、行政に対しては、区民のために尽力していただきたいと言いたい。

今後に向けて

区民会議の組織に関することについては、今回までの意見を反映した要綱を区長が制定することを要望します。

また、区民会議の運営に関することは、今回までの意見を反映したたたき台を作成し、新たな委員構成による第 1 回の区民会議で活用されることを期待します。

委員からの感想

試行の審議課題について

- ・ ふさわしかった。
- ・ ふさわしいと思ったが、委員に選択権があってもよいと思った。課題はひとつでよかったのではないか。
- ・ 今回の二つのテーマは重要なことであるが、駅周辺の地下街からのバス停へのバリアフリー対策を取り上げて欲しかった。
- ・ 今回の課題は良かった。他に、粗大ごみの放置、駅・公園・路上での生活者の問題、仲見世通り・砂子・東田町等の客引きの問題について今後の課題の一部にしてほしい。
- ・ 適当な課題だった。
- ・ 課題としてはよかったが、区の独自案が出せるものでないと案件が要望や関係局に伝えるものになってしまう。区民は解決案を望んでいるので、その点の考慮が必要では。実行が重要である。

会議の進め方について

- ・ 1日に審議する課題は一つにして、十分に意見質問ができるとうよい。
- ・ 平日の日中は仕事の人もいるので、夜間等の開催があってもよい。
- ・ 事務局との一問一答はまとめて答える方が時間の省力化につながり、必ずしも答えはいらぬいのでは。
- ・ 事例報告と資料説明は詳しくて良かったが、時間を取りすぎる。
- ・ 副議長はいらぬいのでは。意見を言える立場にしたらどうか。
- ・ 1回2時間では委員同士の十分な議論ができない。
- ・ 時間を気にしながらの進行だった。時間をかけて審議したらどうか。
- ・ 試行の会議の進め方としては良かった。今後は、各種団体、専門部会から上がった課題を委員会検討し、意見をまとめ、行政に説明を願いたい。
- ・ 現状でよい。
- ・ 年4回と専門部会の活用により、回数としては良いと思う。

区民会議に望むこと

- ・ 区民自らが区内の課題の解決のために審議することはとてもよいことなので、この会議を長く継続し、その結果、暮らしやすい社会の形成に反映されることを望む。
- ・ 3回開催は少ない。専門部会や現地見学も取り入れ、テーマは2つぐらいにして、会議を充実させたい。
- ・ 事務局主導より、委員主体で進めたい。
- ・ 会議方式のスタイル、参加者、参与の位置付けを工夫してほしい。
- ・ 課題は区長の権限の範囲内にとどめずに、事業局の予算に関わるもの考えるべきではないか。

- ・ もっと年齢層を広げ若い人たちの意見を聞くほうが会議として発展するのではないか。
- ・ 会議の雰囲気がとても堅く、意見を発言しづらかった。気軽に意見交換ができると良い。
- ・ 区民のための会議であり、区民から多くの課題を提起してもらい、一つでも実現できれば有難い。
- ・ 川崎区における地域性が、海と陸地で構成され、工業地帯、商業地から影響を受ける生活地帯が存在するため、相互に連携した課題を取上げてほしい。
- ・ 区民が提案した議題の採用をお願いしたい。(区民が議論し合ってまちづくり意識を持つ必要があるため、解決が難しくても認識の共有化ができると思う。
- ・ 専門部会の活用により、多くの課題を取上げてほしい。
- ・ 地域の要望、声をできるだけ多く提示してほしい。

その他

- ・ 新しい川崎の自治方針の取組を知ることができ、区行政の重要さを学んだ。
- ・ 川崎区の市の中心としての機能や、子どもたちにとって住み良い町に取組んでほしい。
- ・ 自分自身ができるところで、応援、ボランティアをしていきたい。
- ・ 地域でもっと問題点などを話し合い、まとめ、良い方向へと協力し合うことが大切だと思う。
- ・ 委員の欠席が気になった。出席できる人をお願いしたい。
- ・ 審議する課題をあらかじめいくつか出しておき、課題に関わりが深い団体などから委員になってもらったらどうか。
- ・ 委員及び参加はそれぞれに、気を遣って発言ができなかったのでは。
- ・ 区民が明るく元気に暮らせる町、きれいな町、幼児から高齢者まで安全で安心できる町、区民の手でつくりたい。行政の力を借りたい。
- ・ 公募委員4人、防災防犯など地域性があるものについて、行政からの投げかけもしてもらいながら、人間関係も地区の様子が見えるような形で取組めたらよいと思う。
- ・ 区政推進会議委員、試行の区民会議委員を経験して、自分なりの勉強はできた。
- ・ 子育て支援については、口コミが大事だということだったので、むかい子育て支援センターのボランティアに3人紹介した。教文の講習会に参加してくれるなど、実績をあげることができた。
- ・ 自転車については、第1回の時に国道15号線から入らないのがよいと発言した。今、整備されてきれいになっているが、自転車が並んでしまうのかと思う。自分自身マナーを守っていきたいと思っている。
- ・ 区民自らが解決に向けて審議することは民主主義の基本だと思う。ますます発展していただきたいと思っている。
- ・ いつも皆さんの意見をききながら感心している。自分の廻りに役立てていきたい。
- ・ 安全安心、潤いのまちづくり、これからも引き続き、推進してもらいたい。